

# 第3次福島町子ども読書活動推進計画

令和5年度～令和9年度

令和5年3月29日策定

福島町教育委員会

(福島町子ども読書活動推進計画策定委員会)

# 目 次

|     |                      |    |
|-----|----------------------|----|
| 第1章 | 計画の策定について            | 2  |
| I   | 計画の策定・趣旨             |    |
| II  | 福島町の現状               |    |
| III | 計画の対象                |    |
| IV  | 計画の期間                |    |
| V   | 計画の目的                |    |
| 第2章 | 計画のための取り組み           |    |
| I   | 家庭における読書活動の推進        | 3  |
| II  | 幼稚園・保育所における読書活動の推進   | 5  |
| III | 学校における読書活動の推進        | 6  |
| IV  | 福祉センター図書室における読書活動の推進 | 10 |
|     | 取り組みの目標値             | 14 |
|     | 読書アンケート回答者内訳         | 15 |

# 第1章 計画の策定について

## I 計画の策定・趣旨

平成13年度、国では「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。第2条には「子ども（おおむね18歳以下）の読書活動は、全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動ができるよう、積極的にそのための環境整備が推進されなければならない」と基本理念が示されています。また、北海道においても「北海道子どもの読書活動推進計画」の第一次計画（平成15年～）から第四次計画（平成30年～）まで策定され、子どもの読書活動環境の整備が図られてきました。

当町では、平成26年に「第1次福島町子ども読書推進計画」、平成30年には「第2次福島町子ども読書活動推進計画」を策定し、家庭や地域における読書活動の促進や児童生徒の読書習慣の確立などに取り組んできたところですが、第2次計画期間の終了に伴い「第3次福島町子ども読書活動推進計画」を策定するものです。策定に際しては、令和4年度に各学校及び町内の小中高校の全児童生徒と幼稚園・保育所、町内の小中高校の保護者を対象に読書アンケートを実施しました。回答や意見をまとめた結果を踏まえ、読書活動の推進のために必要な事項や改善点など子ども読書活動推進計画策定委員会で討議を重ね、本計画の策定にあたってきました。

## II 福島町の現状

当町では、平成17年から開始した乳幼児対象の「ブックスタート事業」を毎月実施し、福祉センター図書室の本を各学校で貸出しする「移動図書事業」や、ボランティアによる絵本の読み聞かせの会など、各学校やボランティア団体、福祉センター図書室との連携を図りつつ、読書活動を推進する事業を行ってきました。また、北海道立図書館の協力を受け、「学校ブックフェスティバル」や「図書室ブックフェスティバル」を継続的に行うなど、読書活動の推進のための様々な取り組みを実施しています。

## III 計画の対象

この計画は、0歳から18歳までの子どもを対象とします。

## IV 計画の期間

令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

## V 計画の目的

福島町の子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭・地域・学校等の連携を進め、積極的にその環境整備を図るよう、本計画を策定するものです。

# 第2章 計画のための取り組み

## I 家庭における読書活動の推進

子どもが本に親しみを持つためには、学校や幼稚園・保育所で本に触れるだけではなく、家庭内でも読書環境を整えることが不可欠です。

### (1) 現状と課題

福島町では現在、子どもが保護者とともに本と出合う機会を提供することを目的としてブックスタート事業を行っており、0歳児からの読み聞かせを推進しています。基本的に毎月実施し、ボランティアによる絵本の読み聞かせ活動及び乳幼児検診時の読み聞かせ活動、検診箇所への配本を行っています。

本の読み聞かせは子どもに本の楽しさを伝えるとともに、親と子のコミュニケーションを増やすことができます。ブックスタート事業については、家庭でも読書に触れる習慣をつくる最初のきっかけとして、これからも創意工夫し、さらなるサービスの向上を図る必要があります。

令和4年に行った読書アンケートによると、児童生徒の保護者に対し、「絵本等の読み聞かせに関心がありますか？」という質問の中で「関心がある」と答えた人は91%と非常に多いのですが、実際に「読み聞かせを行っている(いた)」人は65%という結果でした。「福島町の子どもたちが自主的に本を読むためにはどうすべきと思いますか」という質問で、最も多かった答えは「学校で読書時間を増やす」で、次に多かったのが「家庭内の読書環境を整える」でした。

保護者が子どもの読書活動の大切さを知ることにより、それを子どもに伝えることができます。世代を超えて、読書の魅力を伝えることが大切です。

- 課題1：ブックスタート事業の拡充
- 課題2：保護者に対する啓発活動の推進
- 課題3：家庭への情報提供の推進
- 課題4：読書活動を支える人材の養成

## (2) 今後の方針

家庭で行う読書活動として、「うちどく（家読）」という取り組みがあります。「うちどく」とは、読んだ本について家庭で語り合う中で読書習慣を共有し、それぞれの意見を自由に話し合うものです。また、家庭だけでなく学校で友達とそれぞれ読んだ本について話し合うことも良い刺激になります。読書を通じて家庭でのコミュニケーションの機会を増やすことができる「うちどく」を周知し広めていく中で、読書活動の推進を図っていきます。

また、読み聞かせボランティアと協力し、保護者向けの講習会などを開催することで読み聞かせにふれる場を提供するなど、読み手の環境にも配慮する必要があります。まずは読み聞かせを体験してみることが、ボランティアを増やすきっかけづくりにも結びつくと考えています。

さらに図書室サポーター養成の講習会を開催し、町内のボランティアや児童生徒の保護者から読書活動に関する協力を得るなど、ボランティアの啓発に力を入れ、協力を得ることができるような環境づくりに取り組んでいます。

## (3) 具体的な推進方策

課題1：ブックスタート事業の拡充

### ①ブックスタート事業の継続

\*平成17年度から乳幼児に本をプレゼントする事業として継続実施している。実施当初は0歳児にのみ配布していたが、令和4年度からは0歳児と3歳児に配布している。

### ②読み聞かせの回数及び実施会場の拡充（図書室、乳幼児検診会場等）

課題2：保護者に対する啓発活動の推進

### ①「うちどく（家庭での読書活動）」のさらなる啓発

### ②町民ブックフェスティバルの実施

\*例年、福島町民文化祭に合わせて「図書室ブックフェスティバル」を実施している。

課題3：家庭への情報提供の推進

①新刊リストの作成と図書室ホームページでのPR

②広報誌（図書室 NEWS）の充実

課題4：読書活動を支える人材の養成

①図書室サポーター制度の継続（サポーターの養成・協働〈読み聞かせ・サポーター講習会の実施等〉）

## II 幼稚園・保育所における読書活動の推進

令和4年度現在、福島町には私立幼稚園が1園、公立保育所が1園あります。

### （1）現状と課題

福島幼稚園では、絵本の読み聞かせを大切にしており、「子育てに絵本を」という願いのもと、平成15年より「絵本の広場」の活動に取り組んでいます。保育の中で1日に1～2冊の絵本の読み聞かせを行い、本選びは季節やカリキュラムに沿ったものを選び、季節や行事に関連した絵本や童話を見えるように配置したりするなどの工夫をしています。また、年齢や季節にあった絵本を月に一度プレゼントするなど、家庭での読み聞かせを促進する活動を行っています。

福島保育所では、ボランティアと連携して「よみきかせ会」を行っています。また、誕生会などのイベントや、午後のおやすみ前の時間など、日々の活動のなかで絵本の読み聞かせを実施しています。子どもたちに少しでも本を読んでもらうために、保育室や廊下など、子どもの目のつく所に本のコーナーを設置しています。また、保護者向けのおすすめ絵本のリストを配布しています。

課題1：幼稚園・保育所における読書活動の支援

課題2：保護者に対する啓発活動の推進

課題3：家庭への情報提供の推進

課題4：幼児に対する本の扱いの指導

### （2）今後の方針

幼稚園や保育所に通う子どもが楽しさを発見することで、より一層本に親しみを持ち、好きになってもらえると考えます。さらに読書の大切さ、読み聞かせの大切さを保護者にも伝える必要があります。読書を通じて、

どのような良い影響が子どもにあるのかを明らかにし、懇談会や配布物での啓発を継続していくことで、読書活動への理解が深まるよう努めます。

また、大型絵本やしかけ絵本などの普通の絵本とは異なった資料を利用することで、子どもの本への興味を一層高めることができます。読書イベントで使用する大型絵本などの資料のリスト化を図ります。幼稚園・保育所、各学校図書館や福祉センター図書室のイベント用資料を各々の場所でリスト化し、その情報を交換・共有することで、相互貸借を可能にします。このように、それぞれが現在所有している資料を把握することで、今後の購入を検討する際に役立てることもできます。各々のイベント用資料を有効活用し、読書イベントの更なる充実を図ります。

子どもに読み聞かせを行うだけではなく、子どもが自ら本を手に取り、読もうとする意欲を育てることも非常に大切です。そのためには、幼児に本の扱いを説明し、本の大切さを伝えることも必要となってきます。活字が少ない本でも自分でページをめくり、読み進めていくことに意味があります。小さい頃から多くの本に触れ、楽しさを知ることによって本への親しみがさらに深まります。このように、家庭での保護者の読書に関する意識付けを含め、子どもの読書の習慣化に向けた、今後の読書活動の推進に努めます。

### (3) 具体的な推進方策

課題1：幼稚園・保育所における読書活動の支援

- ① イベント用資料（大型絵本等）の整理、相互貸借
- ② 子ども向け新刊リストの作成・配布

課題2：保護者に対する啓発活動の推進

- ① 「うちどく（家庭での読書活動）」啓発

課題3：家庭への情報提供の推進

- ① 図書の紹介（広報誌の充実）

課題4：幼児に対する本の扱いの指導

- ① 幼児に本の扱いを説明し、本の大切さを伝える。

## Ⅲ 学校における読書活動の推進

令和4年度現在、福島町には町立小学校2校、町立中学校1校、道立高等学校が1校の計4校があり、それぞれの学校で様々な読書活動の推進を行っています。

## (1) 現状と課題

### 主な読書活動の取り組み

|                            | 福島<br>小学校 | 吉岡<br>小学校 | 福島<br>中学校 | 福島<br>商業高校 |
|----------------------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 朝の一斉読書                     | ○         |           | ○         |            |
| 教科等での推進                    | ○         | ○         | ○         | ○          |
| 読み聞かせの実施                   | ○         |           | -         | -          |
| 読書週間や子どもの読書の日の設定           | ○         |           |           | ○          |
| 読書感想文・画コンクールの設定または応募の呼びかけ  | ○         | ○         | ○         | ○          |
| 児童会や図書委員会によるユニークなイベントや取り組み | ○         |           |           |            |
| 図書委員会による日常的な活動             | ○         | ○         | ○         | ○          |

令和4年度に児童生徒に行った読書アンケートによると、約60%の児童生徒が学校図書館を利用しています。利用していない児童生徒の理由として多かったのが、「読みたい本が無い」約66%というものでした。次点で、「本を読むのが嫌い」が約14%、「本の選び方がわからないから」が約12%、その他「体育館で遊びたいから」や「時間がないから」という回答が目立ちました。

また、「朝読書は好きですか」という質問では、「好き」と答えた児童生徒は63%で「嫌い」が約19%、「どちらでもない」が約17%でした。朝読書が嫌いな理由は、「つまらないから」「集中できないから」という回答が最も多い結果となりました。学校の図書館や福祉センター図書室では、児童生徒が興味のある分野の本や、自分に合った良書を見つけるサポートをしています。先生がおすすめの本を紹介するなど、読書に関する話題を日ごろから取り上げることも、児童生徒が朝読書に集中して楽しめる環境づくりに繋がります。

教育委員会と福祉センター図書室は月に一度、各小学校で移動図書事業を実施し、図書の貸し出しを行っています。併せて、各小学校及び中学校への学級文庫の貸出し、年に一度の学校ブックフェスティバルを開催しています。

- 課題 1 : 移動図書事業の充実
- 課題 2 : 保護者に対する啓発活動
- 課題 3 : 児童・生徒への情報提供
- 課題 4 : 学校における読書活動の支援

## (2) 今後の方針

移動図書事業のさらなる充実を図るには図書室サポーターによる支援が必要です。サポーターの参加が増えることにより、学校訪問回数を増やし、訪問日や時間帯についても、学校側の希望日時に合わせた変更をすることも可能になります。学校からの配布物などでボランティアを啓発し、募集を続けていくとともに「うちどく」の周知も進めることで、読書活動を意識付けしていきます。

学校図書館の利用については、蔵書を充実させることで児童生徒の読書活動の推進が見込まれます。図書を購入する際には、児童生徒にリクエストを募るなど、ニーズに合った本を増やす必要があります。このため、福祉センター図書室と所蔵の有無確認や購入予定の情報を交換し、選書に役立てることで資料費を有効に使うとともに、児童生徒のリクエストから選書漏れとなった図書などについても、福祉センター図書室で購入を検討していくことができるような対応に努めます。

学校ブックフェスティバルで実施している**ビブリオバトル※1**や**ブックトーク※2**などの取り組みを通じて本について勧め合い、読書の話題が多くなることで、読書への意欲が高まり、知識も広がります。

福祉センター図書室のサポーター制度は一般以外に、中学生や高校生の参加があると幅広い層のニーズに応えることができ、各学校図書館の運営にも好影響があると見込まれます。さらには、福祉センター図書室での職業体験を通して読書活動により興味を深め、図書室サポーターとしての活動に移行できるような環境づくりを学校と連携しながら推進します。

※1 : ビブリオバトルは誰でもできる本の紹介コミュニケーションゲーム

「人を通して本を知る、本を通して人を知る」

### ビブリオバトル公式ルール

1. 発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる
2. 順番に 1 人 5 分間で本を紹介する
3. それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを 2～3 分間行う

4. 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が 1 人 1 票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする

※2：ブックトークとは、ある一つのテーマに沿って数冊の本を紹介すること。紹介する人の人柄が感じることができるようブックトークが望ましい。広い意味では文字通り本について話をする事。自分の読んだ本を友人に勧めたり、図書室職員が子どもにおもしろい本を勧めることもブックトークといえる。

### (3) 具体的な推進方策

#### 課題1：移動図書事業の充実

- ①移動図書の学校訪問回数及び時間帯の充実

\*現在、福島小・吉岡小を対象に毎月実施している。

#### 課題2：保護者に対する啓発活動

- ①「うちどく（家庭での読書活動）」啓発（配布物、講演会の実施等）

#### 課題3：児童・生徒への情報提供

- ①広報誌の充実

#### 課題4：学校における読書活動の支援

- ①学校図書館と福祉センター図書室の連携（学校支援等）
  - ②読書感想文・画コンクール出品の奨励
  - ③ブックトークやビブリオバトルの実施
  - ④朝読書・読み聞かせの充実
  - ⑤学校ブックフェスティバル実施の拡充
- \*例年、町内の小・中学校で実施している。

## IV 福祉センター図書室における読書活動の推進

福祉センター図書室は月・水・木・金・土曜日の週に5日、午前10時から午後6時まで開室しています。さらに、月に一度、図書室NEWSを町広報に掲載し、イベント情報、新刊やおすすめの本などを紹介しています。

### (1) 現状と課題

#### 福祉センター図書室と学校の主な連携活動

|                          | 福島<br>幼稚園 | 吉岡<br>幼稚園 | 福島<br>保育所 | 福島<br>小学校 | 吉岡<br>小学校 | 福島<br>中学校 | 福島<br>商業高校 |
|--------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 必要時の団体貸出・授業等で<br>使う図書の貸出 |           |           |           | ○         | ○         | ○         |            |
| 学校図書館の整備支援               |           |           |           |           |           | ○         |            |
| 移動図書・学級文庫の貸出             |           |           |           | ○         | ○         | ○         |            |
| ブックフェスティバル時の貸出           |           |           |           | ○         | ○         | ○         |            |
| 総合学習等の授業・職場体験<br>での利用    |           |           |           | ○         | ○         | ○         | ○          |

福祉センター図書室の年間利用状況をみると、利用者は平成25年度をピークに減少傾向にあります。要因として町の人口減少に加え、就学児童生徒数の減少などの影響もあると考えられます。よみきかせの会※3や図書室サポーターによるボランティア活動、白楊会※4や31の会※5といった団体と、個人による図書の寄贈などの貢献もある中で、より利用しやすい環境を整備する必要があります。

福祉センター図書室は、令和3年度より図書管理システムを導入しました。これにより、福祉センター図書室のホームページから蔵書検索や本の予約、新着図書や図書室イベント情報を確認できるようになりました。また、図書管理システムの導入と同時に「読書通帳」の運用も始まりました。「読書通帳」とは、借りた図書の書名などを記録出来る小冊子です。日々の読書の記録が簡単に出来るだけでなく、「読書通帳」を通じて家族のコミュニケーションの幅が広がるなど、「うちどく」の推進にも繋がります。

- ※3：「よみきかせの会」とは、町内で児童生徒に絵本の読み聞かせを行う有志の方々。
- ※4：「白楊会（はくようかい）」とは函館中部高校卒業生で、松前・福島町に在住の有志の方々。
- ※5：「31の会（さんいちのかい）」とは昭和31年に福島中学校を卒業された有志の

方々。年に一度図書を寄贈していただいていたが、令和4年に終了した。

#### 福祉センター図書室の年間利用状況

|          | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度  | 令和2年度  | 令和3年度  |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 貸出者数     | 3,872  | 3,564  | 3,513  | 3,312  | 3,605  |
| 閲覧者数     | 4,400  | 3,718  | 3,651  | 2,386  | 1,493  |
| 利用者数     | 8,272  | 7,282  | 7,164  | 5,698  | 5,098  |
| 開室日数     | 243    | 240    | 228    | 223    | 237    |
| 1日平均利用者数 | 34     | 30     | 31     | 25     | 21     |
| 貸出冊数     | 17,621 | 18,561 | 16,204 | 13,564 | 15,443 |

令和4年度の読書アンケートによると、福祉センター図書室を利用しない児童生徒は全体の約48%に及び、その理由は「読みたい本がない」という回答が約37%で最も多く、「蔵書が児童生徒のニーズに合っていない」という結果でした。また、次点では「図書室が遠いから」という回答が多く約35%、その他「本が嫌いだから」「本の選び方がわからないから」「行く時間が無い」などが挙げられました。

福祉センター図書室では、読みたい本の問い合わせやリクエストを受け付けており、リクエストされた本は購入の検討、または道立図書館等から借りることもできます。こういったサービスを広く町民に周知し、児童生徒のニーズに応えていく必要があります。また、図書室が遠いと感じている児童生徒に対しては、学校図書館をよりいっそう利用しやすい環境に整えるなどの働きかけが有効です。そのためには、福祉センター図書室と学校との連携を更に密にしていくことが大切です。

課題1：子ども読書推進委員会の運営

課題2：読書活動を支える人材の養成

課題3：関係機関との連携

課題4：レファレンス※6機能の拡充

課題5：町全体へ向けての読書活動支援体制の構築

※6：レファレンスとは、図書室利用者が必要な情報や資料を質問した際に、図書室職員が情報そのもの、あるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答する業務のこと。

## (2) 今後の方針

毎年定期的に子ども読書活動推進委員会の会議を行います。会議を通して外部からの意見を広く取り入れるとともに、情報交換や情報共有に努めながら、より充実した読書活動の展開を図ります。

図書室サポーター制度については、町民が気軽に参加出来るような環境づくりが必要です。募集要項を図書室の窓口にて配布するほか、学校を通して保護者への配布、図書室 NEWS への掲載など、様々な方法による周知を図ります。また、サポーターに対しては資質向上のための講習会を開催するなど、その養成に努めます。

また、福祉センター図書室が遠くて利用できない人のために、「みんなの本棚」の設置を継続します。町内の各施設に図書スペースを設置し、蔵書の一部を貸出していますが、さらに町民のニーズに合った選書を心掛け、新刊を購入した際にはリストを作成して窓口で周知するとともに、図書室 NEWS や図書室ホームページで公開します。

道立図書館からは学級文庫や小学校ブックフェスティバル等に利用する「大量一括貸出し」「サポートブック事業」「学校ブックフェスティバル」の活用や、「運営相談・派遣」の実施など、様々な支援事業を受けています。道立図書館から支援を受けて実施する「学校ブックフェスティバル事業」では、道立図書館から借用した図書を利用するほか、しかけ絵本の特別展示など、児童生徒の好奇心や遊び心をくすぐるような展示を行い、児童が楽しく本に触れ合う機会を提供します。

近隣の図書館(室)との連携事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により活動の機会が減少していますが、渡島西部四町図書館(室)合同の情報交換の場の確保や研修会の実施は、職員の資質向上のために大切です。今後も四町の連携を深め活性化を図ります。

福祉センター図書室では「読書通帳」を活用した取り組みとして、通帳1冊分(312冊)の「記帳」を終えた方を「読書横綱」として表彰しています。福祉センター図書室が新たな読書イベント・サービスを考え、実行していくことは読書活動の推進に不可欠です。また、既存の事業についても改善できる部分については積極的な改善に努めます。

## (3) 具体的な推進方策

課題1：子ども読書推進委員会の運営

①子ども読書推進委員会としての活動・会議の実施

- ②外部評価（アンケート等）を取り入れた運営
  - \* 第三者の意見も取り入れた読書活動を推進する。

#### 課題 2：読書活動を支える人材の養成

- ①図書室サポーター制度の充実
  - \* 図書室サポーター制度は、平成 26 年度から始められた制度で、利用者の視点から図書室資料の整理やイベント支援を行っている。令和 4 年度現在で、登録者数は 12 名である。
- ②ボランティアの養成・協働

#### 課題 3：関係機関との連携

- ①保育所・幼稚園・学校図書室との連携
- ②渡島西部四町の連携
- ③北海道立図書館との連携
  - \* 利用者から依頼のあった本を貸し借りする「相互貸借」や、3 カ月ごとにまとまった数の本を借りる「大量一括貸出し」を行っている他、大型絵本や紙芝居の貸借、運営相談なども実施している。
- ④渡島管内図書館振興協議会との連携
  - \* 職員の研修機会の提供など。

#### 課題 4：レファレンス機能の拡充

- ①ホームページによる情報提供とレファレンスの受付
  - \* 利用者の幅広いニーズに応える環境づくりをする。
- ②新刊リストの作成と配布・配信

#### 課題 5：町全体へ向けての読書活動支援体制の構築

- ①町内施設への図書スペースの設置
  - \* 現在、吉岡総合センター等に設置されている。今後、新規設置の機会があれば拡充に努める。
- ②図書室ブックフェスティバルの拡充
  - \* 例年文化祭に併せて図書室フェスティバルを実施している。
- ③図書検索システム及び読書通帳を活用した読書活動の推進

福島町福祉センター図書室ホームページ

[https://www.lib-eye.net/fukushima\\_town\\_library/](https://www.lib-eye.net/fukushima_town_library/)

うちどくホームページ

<https://www.tohan.jp/csr/uchidoku/index.html>

知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト

<https://www.bibliobattle.jp/>

ブックトーク（東京都立図書館）

<https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/junior/puratanasu/57/contents/>

## 計画策定に向けての取り組みの目標値（次期5カ年）

計画の進捗状況が把握できるよう、計画最終年次の目標値を設定します。また、令和7年度には中間アンケートを行い、その時点での状況を確認します。

### ①本を読むのが好きな児童生徒を増やす

|      | 第一次計画最終実績<br>(平成29年) | 第二次計画最終実績<br>(令和4年) | 第三次計画目標<br>(令和5年～) |
|------|----------------------|---------------------|--------------------|
| 児童生徒 | 66.3%                | 58.3%               | 65%                |

### ②学校図書室（館）を利用する児童生徒を増やす

|      | 第一次計画最終実績<br>(平成29年) | 第二次計画最終実績<br>(令和4年) | 第三次計画目標<br>(令和5年～) |
|------|----------------------|---------------------|--------------------|
| 児童生徒 | 70.0%                | 63.9%               | 70%                |

### ③福祉センター図書室を利用する児童生徒を増やす

|      | 第一次計画最終実績<br>(平成29年) | 第二次計画最終実績<br>(令和4年) | 第三次計画目標<br>(令和5年～) |
|------|----------------------|---------------------|--------------------|
| 児童生徒 | 71.3%                | 51.9%               | 60%                |

### ④読み聞かせをしている（いた）保護者を増やす

|     | 第一次計画最終実績<br>(平成29年) | 第二次計画最終実績<br>(令和4年) | 第三次計画目標<br>(令和5年～) |
|-----|----------------------|---------------------|--------------------|
| 保護者 | 61.8%                | 65.0%               | 65%                |

## 福島町読書アンケート回答者内訳（令和4年度）

このアンケートでの「本」「読書」にマンガや雑誌は含めません。

### 児童生徒

|     | 回答数  | 児童生徒合計 | 回答率   |
|-----|------|--------|-------|
| 小学生 | 87人  | 88人    | 98.9% |
| 中学生 | 41人  | 42人    | 97.6% |
| 高校生 | 27人  | 28人    | 96.4% |
| 合計  | 155人 | 158人   | 98.1% |

### 保護者

|     |
|-----|
| 回答数 |
| 69人 |

## 福島町子ども読書活動推進計画策定委員名簿

| 氏 名       | (選 任 団 体)         |
|-----------|-------------------|
|           | 所 属 ・ 職 業         |
| 丁子谷 雅 男   | (家 庭 保 育 者 関 係)   |
|           | 一 般               |
| 川 合 正 子   | (ボ ラ ン テ ィ ア 関 係) |
|           | 図 書 室 サ ポ ー タ ー   |
| 金 谷 恵 理 子 | (家 庭 保 育 者 関 係)   |
|           | 一 般               |
| 中 村 順 子   | (家 庭 保 育 者 関 係)   |
|           | 一 般               |
| 野 坂 さ ゆ り | (教 育 関 係)         |
|           | 福 島 小 学 校         |
| 水 野 明 美   | (教 育 関 係)         |
|           | 吉 岡 小 学 校         |
| 小 川 将 吾   | (教 育 関 係)         |
|           | 福 島 中 学 校         |
| 清 水 貴 彦   | (教 育 関 係)         |
|           | 福 島 商 業 高 等 学 校   |
| 矢 野 智 恵 美 | (教 育 関 係)         |
|           | 福 島 保 育 所         |
| 渋 谷 朋 美   | (教 育 関 係)         |
|           | 福 島 幼 稚 園         |